

参加型教材実験プロジェクト

8月20日（日）13:00～15:00 センター棟4階

教材を手掛かりに参加者の発想を交流し、どんな授業ができるか構想する実験的なプロジェクトです。

I 近畿支部(403室)

身の回りの素材から生まれる音の可能性 —素材の比較を通して—

○渡邊真一郎（畿央大学）

石光政徳（大阪教育大学附属池田小学校）

大和賛（京都教育大学附属桃山小学校）



現行の学習指導要領では、「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」の育成が目指されています。この「生活や社会の中の音」とは何なのでしょう。それらを扱うことはなぜ重要なのでしょうか。

本プロジェクトでは、様々な素材（木、石、紙、缶）に実験的に関わり、素材から生まれる多様な音を味わう経験をしめます。参加者の感性により音を生み出すことや、特質の違う素材を比較検討することを通して、それぞれの素材ならではの特徴やよさについて議論を行います。その経験から、素材から生まれる音の教材としての可能性を探ります。

「生活や社会の中の音」を教材として扱うことの重要性について一緒に考えてみましょう。

II 中国支部(405室)

変わりゆく民謡

—日本民謡の可能性を探る—

○富樫真紀（広島県東広島市立西条小学校）

森保尚美（広島女学院大学）

瀬良みづほ（広島県広島市立鈴張小学校）

民謡は、人々の生活の中で、仕事や儀式、お祭りなどで歌い継がれてきました。学習指導要領では「我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わうこと」が求められています。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大も影響し、歌い継ぐ人は減少している現状があります。一方で、ロックや電子楽器など様々な音楽を掛け合わせた新しい民謡も生まれています。

本プロジェクトでは、和楽器を伴奏に歌われる伝統的な民謡と現代的に様々なアレンジされた民謡を素材として提供します。これらの楽曲を教材にすることでどのような授業を作ることができるか、参加者の皆様と共に考えていきたいと思ひます。

